

VEDICA

設立 10 周年のあゆみ

(2015～2025年)



令和 7 年12月11日

野菜流通カッタ協議会

Vegetables Distribution and Cutting Association

目 次

頁

設立10周年にあたって（あいさつ）

野菜流通カット協議会 会長 木村 幸雄 1

現理事・監事による寄せ書き 2

野菜流通カット協議会設立10周年祝辞

農林水産省 大臣官房生産振興審議官（兼農産局） 佐藤 紳 3

「野菜流通カット協議会設立10周年記念誌」祝辞

農林水産省 農産局 園芸作物課長 宮本 亮 4

野菜流通カット協議会設立時の思い出

穀物乾燥貯蔵施設協会 常務理事 戸谷 亨（元事務局理事） 5

野菜流通カット協議会10周年祝辞

（一社）日本パインアップル缶詰協会 専務理事 竹森 三治（前事務局理事） 5

野菜流通カット協議会10年間の役員構成 6～7

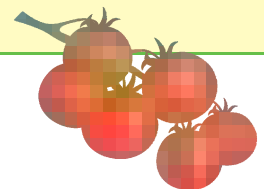
野菜流通カット協議会10年間の活動状況 8～14

写真で見る野菜流通カット協議会10年間のあゆみ 15～19

野菜流通カット協議会会員名簿（令和7年度） 20

野菜流通カット協議会会員数の推移 20

設立10周年を迎えて（野菜流通カット協議会事務局あいさつ） 21



設立10周年にあたって



「野菜流通カット協議会」は、平成27年5月に従来の青果物カット事業協議会と野菜ビジネス協議会の両協議会を統合して新たに設立致しました。

本協議会は、青果物の流通・加工事業関連業界の健全な発展に資することを目的として、加工・業務用野菜を中心とする青果物の生産者との共生を図りつつ、その生産の振興及び流通の効率化、安全性及び品質の確保・向上、消費の拡大を図るため、必要な調査研究、指導、情報活動に関する事業を行って参りました。

このたび記念すべき設立10周年を迎えるにあたり、これまでの歩みを支えてくださった会員各位、農林水産省をはじめ広く関係するすべての皆様に心より感謝申し上げます。

この10年間、我が国の青果物流通を取り巻く環境は大きく変化いたしました。人口減少と高齢化、労働力不足の深刻化、物流コストの上昇、気候変動による生産変動など現場を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。その一方で、家庭内調理の省力化や中食・外食市場の拡大、さらには新型コロナを契機とした消費行動の変容など、加工・業務用野菜の重要性はこれまで以上に高まっています。

こうした情勢のもと、本協議会は、生産・流通・加工・販売の各段階を横断するプラットフォームとして、関係情報の共有、安定的な取引関係の構築、衛生管理基準の共有、品質保持技術の改善など、業界全体の底上げに引き続き取り組んで参ります。また、産地・事業者・行政が一体となった協働の場として、各種セミナーの開催などを通じて政策的な課題にも当協議会として積極的に提言・対応をしまいる所存です。

設立10周年という節目を迎え、当協会は各種取組を通じて大きく発展して参りました。この先も我が国の流通・加工業務用野菜の新たな時代への一步を踏み出すべく、これまで培ってきた信頼と連携の絆を礎に、加工・業務用野菜の発展と食産業の持続的成長に向けて、会員一同一層努力を重ねてまいります。最後に皆様にお約束しますが、会員皆様が知りたい事、興味ある事、業界最新情報、異常気象対応等をセミナー、研修会を通してお伝えする事を最優先とした協議会運営をさせていただきます。今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年12月

野菜流通カット協議会
会長 木村 幸雄

令和7年度 野菜流通カット協議会理事・監事による寄せ書き

10周年おめでとうございます。
野菜の価値をさらに上げて
お客様の期待に応えられるよう
頑張ります。 林正二

おめでとうございます！
更に100年を目指しましょう
岡田貴浩

10周年おめでとうございます。
新たな節目を迎え、
更なる発展をお祈りします。
藤澤

設立10周年

おめでとうございます
10周年という大切な節目
お祝いに心をこめて
思います。
今後も協議会が輝く
発展していくように。
野口修

10周年おめでとうございます。
野菜流通カット協議会が
今後更に発展する事を願います。
藤本純生

10周年おめでとうございます
皆様のご尽力に深く敬意と
感謝を申し上げます
次の10年も激変する時代の
先導として道々のご発展を
祈念いたします。小原

10年ありがとうございました。
これから皆様さんの知恵と
関心で対応します。
お約束します。木村



10周年、心よりお祝い申し
上げます。食の価値を再
定義し、掲げてもらえる皆様の
歩みに敬意を表します。
野口知子

新しい時代に向けて、
ご支援ご協力引き続き
よろしくお願いいたします！
藤村博志

10周年おめでとうございます
皆様と共に日本の食の発展
させましょう！ 山田敏壽

野菜流通カット協議会
10周年おめでとうございます
研修会、セミナー等いつも
大変勉強になります。
これからよろしくお願いいたします。田井中

10周年おめでとうございます。
毎年新しい仕事を進めて
いながら感謝です。
今後の活躍を期待して
おります。錦山功

野菜流通カット協議会10周年
本当におめでとうございます。
引き続き、監事頑張ります。
鈴木勝巳

10周年おめでとうございます。
日本農業の発展に向け、今後も
取り組んでまいります！！
大坪智

10周年おめでとうございます。
生産流通販流の
連携を深め業界の発展に
努めてまいります。

菅原康成

野菜流通カット協議会設立10周年祝辞

農林水産省 大臣官房生産振興審議官（兼農産局）

佐藤 紳



野菜流通カット協議会が設立10周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。木村幸雄会長はじめ、これまでの関係者の皆様のご尽力に深く敬意を表するとともに、この節目の年を迎えられたことに對し、心からの祝意を申し上げます。

我が国の野菜の生産・流通・消費形態は、消費者ニーズの多様化、ライフスタイルの変化、そして持続可能な農業の推進という観点からも、近年大きな変革を遂げてきました。中でも、カット野菜の需要は年々高まりを見せており、外食・中食産業のみならず、「手軽に野菜を摂れる」選択肢として、家庭においても欠かせない存在となっています。

このような中、野菜流通カット協議会は、業界の健全な発展と品質・衛生管理の向上、さらには流通の効率化を目指し、設立以来、重要な役割を果たしてこられました。生産者、加工業者、流通関係者等が一体となって課題に取り組み、情報共有や技術の向上を進めてこられたことは、我が国の食の安全・安心を支える上で極めて意義深いものであり、何より、業界としての価値創造に大きく寄与してきたものと考えています。

一方、我が国は、長く続いたデフレの影響により、カット野菜の価格は「100円が当たり前」という認識が広がっております。しかしながら、原材料費や人件費の上昇、衛生管理の高度化など、現実のコスト構造を踏まえれば、この固定観念は必ずや打破しなければなりません。本年6月、食料安全保障を強化し、食料の生産から消費までのサプライチェーン全体で持続可能な仕組みを構築することを目的とする「食料システム法」が成立しましたが、合理的な価格形成を進め、適正な付加価値を評価する仕組みを整える上でも、生産者、加工業者、流通業者等が一体となって活動する野菜流通カット協議会の役割は益々重要なものとなると大いに期待しています。

十年という節目は、過去を振り返るとともに、未来を展望する好機でもあります。今後、人口減少や労働力不足、気候変動の影響など、野菜の生産、加工、流通、そして消費をめぐる課題は一層深刻化することが予想されます。特に、ここ数年、夏の猛暑をはじめとして災害級の異常気象が頻発しており、野菜の安定生産に重大な影響を及ぼしています。一方で、ロボット技術、スマート農業技術をはじめ、近年の技術の進歩はめざましく、施設園芸における高度環境制御技術の導入は、「当たり前」という時代になるでしょう。更に、AIの出現は、あらゆる産業に大きな変革をもたらしつつあり、精緻な生育予測や市況予測を可能にするなど、野菜流通の現場を大きく変えることになるでしょう。

これらの技術革新により、野菜供給の安定化が図られるとともに、人手に頼っていた収穫作業や加工工程等の自動化、消費者の健康志向に応える商品開発が加速化し、加工・業務用野菜の国産シェアの飛躍的拡大につながっていくものと確信するとともに、青果物の安定供給と持続可能な食料システムの構築に向けた取り組みがさらに進展することを期待しております。

結びに、野菜流通カット協議会の更なるご発展と、関係者の皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、私からの祝辞とさせていただきます。

「野菜流通カット協議会設立10周年記念誌」祝辞

農林水産省 農産局 園芸作物課長 宮本 亮



このたび、野菜流通カット協議会が設立10周年を迎えることを、心よりお祝い申し上げます。また、野菜をはじめとした園芸作物の生産、流通、消費、輸出の振興にあたり、木村幸雄会長をはじめとした関係する皆様方の日頃のご尽力に対し、あらためて御礼を申し上げます。

さて、わが国の食料自給率は38%（カロリーベース、令和6年度）となっており、この4月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」では、令和12年までの目標として45%を掲げ、国内の農業生産の増大が大きなテーマとされていますが、品目別にみると野菜の自給率は75%と米に次いで高い状況にあります。

一方、用途別に野菜の自給状況を振りかえると、家計消費用については、現在に至るまでほぼ全量、国産野菜が供給されてきたのに対し、中間事業者、食品製造業、外食産業等の実需者向けに生産される加工・業務用野菜の国産割合は、平成2年の約9割から平成27年には約7割まで低下し、その後も横ばいとなる等の実情を踏まえ、実需者からは国産野菜の安定供給が強く求められるようになりました。

野菜流通カット協議会は、このような背景のもと、平成27年に青果物カット事業協議会と野菜ビジネス協議会の両協議会を統合して設立されたとうかがっております。農林水産省としても、設立当初以来、国産野菜による加工・業務用野菜のサプライチェーンの構築に向け、貴協議会の活動をはじめ、野菜産地とのマッチング、会員企業をはじめとした中間事業者の加工・貯蔵施設の導入に対する支援等に取り組んできたところです。さらに、令和6年には「国産野菜シェア奪還プロジェクト」を立ち上げ、農林水産省ホームページ等を通じ、先進事例や関連施策情報のほか、会員から提供される情報をタイムリーに発信するなど、取組の強化を図っております。

この取組では、主要野菜のうち、輸入量や輸入割合が多く、実需者からの国産ニーズの高いものとして、たまねぎ、にんじん、ほうれんそう、ブロッコリー、ねぎ、かぼちゃ、えだまめの7品目の国産代替について、特に力を入れて対応しているところです。また、冷凍野菜については、依然として中国等から輸入品が95%を占める状況となっていますが、消費者の国産品へのニーズの高まりや近年の内外価格差の縮まり等から、国産冷凍野菜の伸びしろはまだまだ大きいものと考えており、産地側、実需者側の両面における取組を支援してまいります。

令和7年の夏は、前年に続いて高温・少雨傾向となり、多くの野菜産地において、生育不良、小玉化、出荷時期の遅れ等の影響を受けたところです。このようなことから、定時・定量・定品質が強く求められる加工・業務用野菜では、来年作に向けて一層の対策が必要とされる状況となっております。農林水産省では、「時代を拓く園芸産地づくり支援」等の補助事業により、遮光資材、高温耐性品種等の作柄安定技術の導入に対する支援を行ってきたところですが、今後とも国内産地による周年安定供給の実現に向け、必要な予算の確保をはじめ、しっかりと対応してまいります。

貴協議会とは、わたし自身、設立当時に園芸作物課総括課長補佐として関わり、その後、園芸流通加工対策室長として貴協議会を担当し、生産推進室長のときには「強い農業づくり総合支援交付金」等を通じて会員企業の施設整備をお手伝いするなど、ご縁に恵まれてきました。貴協議会のますますのご発展を祈念するとともに、引き続き、さまざまな場面で連携しながら、国産野菜のシェア奪還に取り組んでいきましょう。

野菜流通カット協議会設立時の思い出

穀物乾燥貯蔵施設協会 常務理事 戸谷 亨（元事務局理事）



野菜流通カット協議会の設立10周年、おめでとうございます。私は、（一社）日本施設園芸協会で、協議会の前身である野菜ビジネス協議会と青果物カット事業協議会の時代から関わり、両協議会が統合した平成27年当時の事務局理事を務めておりました。

両協議会では、野菜を中心として、流通、カット野菜の製造・販売を行う企業を会員として構成されていました。両協議会は、野菜の流通・加工ビジネスの発展を目的とする方向は同じであり、従来から連携して活動が行われていましたが、野菜の流通において加工・業務用が増え、数社は両協議会の会員になっていたことから、以前から会員の中には、両協議会が一緒になって一体的に活動することで、青果物の流通・加工関連業界の一層の発展につながるとのご意見がありました。このような中で、当時の青果物カット事業協議会の黒田会長から改めて両協議会の統合についてご提案があり、統合する方向で検討が始まったと承知しております。

統合の前々年末の両協議会の理事会で統合の方向が決まり、農林水産省への説明と了解、両協議会のメンバーと事務局が協力して、統合のビジョン、規約、新組織の名称、会費、統合前財産の扱い等の検討、統合時期の調整、設立パーティーの開催等で、慌ただしかったことが思い出されます。

新しい組織を作るには、時間と労力がかかりますが、統合が円滑に行われたのは両協議会の皆様の熱意があったのと思います。当時の事務局の関係者として、現在は設立当時と比べてもはるかに多くの会員が参加されて活発な活動を展開され、農林水産省の野菜施策の推進においてもなくてはならない団体として発展されている姿を見ると大変喜ばしく思う次第です。

木村会長はじめ会員各位、事務局の日本施設園芸協会の関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げるとともに、協議会のますますのご発展を心から祈念いたします。

野菜流通カット協議会 10 周年祝辞

一般社団法人日本パインアップル缶詰協会 専務理事 竹森三治（前事務局理事）

野菜流通カット協議会の設立10周年おめでとうございます。



私は、野菜流通カット協議会が設立された1年後の平成28年6月から戸谷さんの後任として協議会の理事・事務局として4年間活動に参画させていただきました。私が野菜関係の仕事を担当するのは2度目で、前回農林水産省で担当してから10年余が経過していましたが、野菜流通の中で加工・業務用野菜の重要度は一層増しておりました。この中で、生産者、市場関係者や卸売業者などの中間事業者、実需者がそれぞれの抱える事情を相互に理解しつつ、連携して国内産の加工・業務用野菜の供給を確保していくという協議会の活動は極めて重要なものとなっていました。

具体的活動として、農林水産省の助成を受けながら、加工・業務用野菜の規格の提示、契約栽培推進のための方策の検討から始まり、収穫機械の実証展示、長期冷蔵技術の実証、中間貯蔵施設・集約集出荷・パレット統一の検討、さらにはモーダルシフトの推進の検討など幅広いテーマについて全国・地方段階での検討会・セミナーを精力的に開催し、多くの関係者に参加いただきました。本当に幅広い内容に私自身十分に対応できなかったことが多かったと反省しておりますが、活動を円滑に進めることができたのは、ひとえに木村会長の高い見識と指導力、会員の皆様の暖かいご支援、そして平島部長や亡くなられた原口さんなど事務局の献身的な努力の賜物と改めて深く感謝しております。

協議会の役割がますます重要となる中で、設立10周年を契機として協議会と会員の皆様の方の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

野菜流通カット協議会

【平成27～28年度】（2015～2016年度）

会 長	木村 幸雄	株式会社彩喜	
副会長	黒田 久一	株式会社三晃	
副会長	小林 憲司	デリカフーズ株式会社	
	岡田 貴浩	横浜丸中青果株式会社	
	木村 秀樹	全国農業協同組合連合会	
	朱 亀 寿美朗	東京シティ青果株式会社	27年度
	小谷 洋二	〃	28年度
	高橋 勝生	富士食品工業株式会社	
	樽本 純生	株式会社清浄野菜普及研究所	
	野口 修	サンポー食品株式会社	
	福田 高志佳	株式会社食料マネジメントサポート	
	藤本 幸佳	キュービー株式会社	
	森下 司理	三井物産アグロビジネス株式会社	27年度
	池辺 安理	〃	28年度
	戸谷 亨	一般社団法人日本施設園芸協会	27年度
	竹森 三治	〃	28年度
監 事	鈴木 勝巳	ナラサキ産業株式会社	
監 事	山田 敏之	こと京都株式会社	

【平成29～30年度】（2017～2018年度）

会 長	木村 幸雄	株式会社彩喜	
副会長	黒田 久一	株式会社三晃	
副会長	岡田 貴浩	横浜丸中ホールディングス株式会社	
	小谷 洋二	東京シティ青果株式会社	
	高橋 勝生	富士食品工業株式会社	
	樽本 純生	株式会社清浄野菜普及研究所	
	野口 修	サンポー食品株式会社	
	池辺 安理	三井物産アグロビジネス株式会社	
	三木 純一	全国農業協同組合連合会	
	田井中 俊行	デリカフーズ株式会社	
	網野 真	伊藤忠商事株式会社	
	上野 秀典	みかど協和株式会社	
	竹森 三治	一般社団法人日本施設園芸協会	
監 事	鈴木 勝巳	ナラサキ産業株式会社	
監 事	山田 敏之	こと京都株式会社	

【令和元～2年度】（2019～2020年度）

会 長	木村 幸雄	株式会社彩喜	
副会長	黒田 久一	株式会社三晃	元年度
副会長	岡田 貴浩	横浜丸中ホールディングス株式会社	
	高橋 勝生	富士食品工業株式会社	元年度
	金沢 充	〃	2年度
	樽本 純生	株式会社清浄野菜普及研究所	
	野口 修	サンポー食品株式会社	
	黒滝 英樹	全国農業協同組合連合会	元年度
	小河 義徳	〃	2年度
	田井中 俊行	デリカフーズ株式会社	
	山村 裕	伊藤忠商事株式会社	元年度
	田邊 秀洋	〃	2年度
	上野 秀典	みかど協和株式会社	元年度
	成見 慶一	〃	2年度
	山田 敏之	こと京都株式会社	
	細野 平一	東京シティ青果株式会社	
	藤澤 公義	株式会社フルックス	2年度
	竹森 三治	一般社団法人日本施設園芸協会	元年度
	藤村 博志	〃	2年度
監 事	鈴木 勝巳	ナラサキ産業株式会社	
監 事	林 正二	株式会社旭物産	

10年間の役員構成

敬称略

【令和3～4年度】（2021～2022年度）

会長	木村 幸雄	株式会社彩喜
副会長	岡田 貴浩	横浜丸中ホールディングス株式会社
副会長	樽本 純生	株式会社清浄野菜普及研究所
	野口 修	サンポー食品株式会社
	田井中 俊行	デリカフーズ株式会社
	成見 慶	みかど協和株式会社
	山田 敏之	こと京都株式会社
	細野 平一	東京シティ青果株式会社
	笹原 康成	〃
	藤澤 公義	株式会社フルックス
	小河 義徳	全国農業協同組合連合会
	田邊 秀洋	伊藤忠商事株式会社
	錦山 功	株式会社 ハローワーク
監事	藤村 博志	一般社団法人日本施設園芸協会
監事	鈴木 勝巳	ナラサキ産業(株)→ユアサ商事(株)（4年度）
	林 正二	株式会社旭物産

3年度

4年度

【令和5～6年度】（2023～2024年度）

会長	木村 幸雄	株式会社彩喜→株式会社K PRODUCE（6年度）
副会長	岡田 貴浩	横浜丸中ホールディングス株式会社
副会長	樽本 純生	株式会社清浄野菜普及研究所
	野口 修	サンポー食品株式会社
	田井中 俊行	デリカフーズホールディングス株式会社
	成見 慶	ヴィルモランみかど株式会社
	小原 哲	〃
	山田 敏之	こと京都株式会社
	笹原 康成	東京シティ青果株式会社
	藤澤 公義	株式会社フルックス
	大坪 智	全国農業協同組合連合会
	錦山 功	株式会社 ハローワーク
	林 正二	株式会社旭物産
監事	藤村 博志	一般社団法人日本施設園芸協会
監事	鈴木 勝巳	ユアサ商事株式会社
	野口 知江子	株式会社健食

5年度

6年度

【令和7年度】（2025年度）

会長	木村 幸雄	株式会社K PRODUCE
副会長	林 正二	株式会社旭物産
副会長	山田 敏詩	こと京都株式会社
	岡田 貴浩	横浜丸中ホールディングス株式会社
	樽本 純生	株式会社清浄野菜普及研究所
	野口 修	サンポー食品株式会社
	田井中 俊行	デリカフーズホールディングス株式会社
	笹原 康成	東京シティ青果株式会社
	藤澤 公義	株式会社フルックス
	大坪 智	全国農業協同組合連合会
	錦山 功	株式会社ハローワーク
	小原 哲	ヴィルモランみかど株式会社
監事	藤村 博志	一般社団法人日本施設園芸協会
監事	鈴木 勝巳	ユアサ商事株式会社
	野口 知江子	株式会社健食

2015年度（平成27年度）

- 2015年(平成27年) 5月 野菜ビジネス協議会(会員数18社)と青果物カット事業協議会(会員数28社)の合同総会を開催した
両協議会の組織解散の審議を経て、その後、両協議会が一つの新組織となる設立総会を開催した
新組織名称「野菜流通カット協議会」が承認された
- 2015年(平成27年) 5月 第1回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
2015年(平成27年) 6月 第2回理事・監事会を開催した 於：東京八重洲ホール
2015年(平成27年) 12月 第3回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
- 2015年(平成27年)10月 農畜産業振興機構と協議会の共催による「加工・業務用野菜産地と実需者との交流会2015」
(国産野菜契約取引マッチング・フェア)を開催した
於：北九州会場/西日本総合展示場・・・会員6社+事務局参加
2016年(平成28年) 3月 於：東京会場/東京流通センター展示場・・・会員9社+事務局参加
- 2015年(平成27年)10月 協議会会員と西日本地区の全農各県本部・県連・県JAとの情報交換会を開催した
於：西日本総合展示場会議室
参加者：会員16社25名、JA全農関係者20名、事務局3名
2016年(平成28年) 2月 協議会会員と東海・北陸・近畿地区の全農各県本部との情報交換会を開催した
於：ホテルモントレ神戸会議室
参加者：会員14社22名、JA全農関係者15名、事務局2名
- 2015年(平成27年)12月 農林水産省 生産局 園芸作物課との意見交換会を開催した
於：KKRホテル東京 参加者：62名
2016年(平成28年) 1月 2015ベトナム・タイ現地研修ツアー（5泊6日）を開催した
参加者：24名（含む、事務局2名）
- 2016年(平成28年) 3月 国内現地研修会を開催した（群馬県下）
於：富士食品工業株式会社の本社工場及び日光工場の視察及びセミナーを開催した
参加者：66名（含む、農林水産省・ALIC・事務局等8名）
- 平成27年度青果物流通システム高度化事業を事業実施主体として受注、以下の内容を実施した
2015年(平成27年)11月 ①キャベツ現地検討会（宮城県下）
キャベツ機械収穫実演及びセミナー開催（参加者145名）
2015年(平成27年)11月 ②ニンジン現地検討会（富山県下）
ニンジン機械収穫実演及びセミナー開催（参加者88名）
2015年(平成27年)12月 ③ニンジン現地検討会（熊本県下）
ニンジン機械収穫実演及びセミナー開催（参加者113名）
- 新流通方式に係る産地・実需者等の現地視察及びセミナーを開催した
2015年(平成27年) 8月 ④札幌会場/札幌貨物ターミナル駅/札幌コンベンションセンター（参加者67名）
2015年(平成27年) 9月 ⑤熊本会場/熊本貨物ターミナル駅/TKPガーデンシティ ネストホテル熊本（参加者62名）
2015年(平成27年) 12月 ⑥東京会場/隅田川貨物ターミナル駅/隅田川貨物ターミナル駅内会議室（参加者68名）

2016年度（平成28年度）

- 2016年(平成28年) 5月 平成28年度の通常総会をKKRホテル東京で開催した
- 2016年(平成28年) 5月 第1回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
2016年(平成28年) 6月 第2回理事・監事会を開催した 於：東京八重洲ホール
2016年(平成28年)12月 第3回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
- 2016年(平成28年)11月 農畜産業振興機構と協議会の共催による「加工・業務用野菜産地と実需者との交流会2016」
(国産野菜契約取引マッチング・フェア)を開催した
於：東京会場/東京流通センター展示場・・・会員9社+事務局参加
2017年(平成29年) 3月 於：東京会場/東京国際フォーラム・・・会員13社+事務局参加
- 2016年(平成28年) 7月 施設園芸・植物工場展2016（GPEC）の流通・加工・鮮度保持ゾーンへ2小間出展した
- 2016年(平成28年) 6月 協議会会員と東北地区の全農各県本部との情報交換会及び産地視察会を開催した
於：産地視察先 ①農事組合法人井上生産組合、②株式会社やまもとファームみらい野
参加者：会員13社22名、事務局2名

2016年(平成28年) 7月	協議会会員と関東地区の全農各県本部との情報交換会及び産地視察会を開催した 於：産地視察先 ①茨城県本部 中央V Fステーション、②タキイ茨城研究農場 参加者：会員12社17名、事務局1名
2016年(平成28年) 7月	協議会会員と東海・北陸・近畿地区の全農各県本部との情報交換会及び産地視察会を開催した 於：産地視察先 ①J A全農とやまミニトマト実証施設、②富山県本部野菜センター 参加者：会員7社10名、事務局1名
2017年(平成29年) 1月	協議会会員と関東地区の全農各県本部との情報交換会及び産地視察会を開催した 於：栃木県JAビル 参加者：会員10社13名、事務局2名
2016年(平成28年)12月	農林水産省 生産局 園芸作物課との意見交換会を開催した 於：KKRホテル東京 参加者：60名
2017年(平成29年) 2月	「オリンピック・パラリンピック」における国産食材調達等に係る勉強会を実施した 於：東京八重洲ホール 参加者：50名
2017年(平成29年) 3月	2017 ニュージーランド現地研修ツアー（5泊6日）を開催した 参加者：21名（含む、事務局2名）
2017年(平成29年) 4月	国内現地研修会を開催した（京都府下） 於：こと京都株式会社の横大路工場及び向島工場の視察及び研修会を開催した 参加者：42名、事務局等3名
2017年(平成29年) 9月	平成28年度青果物流通システム高度化事業を事業実施主体として受注、以下の内容を実施した ①白ネギ現地検討会（秋田県下） 白ネギ機械収穫実演及びセミナー開催（参加者132名）
2016年(平成28年)12月	②白ネギ現地検討会（埼玉県下） 白ネギ機械収穫実演及びセミナー開催（参加者97名）
2016年(平成28年)12月	③加工・業務用ほうれんそう現地検討会（宮城県下） ほうれんそうの乗用型自動収穫機実演及びセミナー開催（参加者148名）
2016年(平成28年)11月	④水田を利用した加工・業務用野菜の栽培取組の視察及びセミナー（熊本県下） 於：八代地域農業協同組合管内ほ場、セミナー場所：やつしろハーモニーホール 参加者：146名
2016年(平成28年)10月	新流通方式に係る産地・実需者等の現地視察及びセミナーを開催した ⑤茨城会場：常陸那珂貨物ターミナル/水戸京成ホテル（参加者34名）
2017年(平成29年) 1月	⑥大分会場：大分港貨物ターミナル駅/ アリソンホテル大分（参加者42名）

2017年度（平成29年度）

2017年(平成29年) 5月	平成29年度の通常総会をKKRホテル東京で開催した
2017年(平成29年) 5月	第1回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
2017年(平成29年) 6月	第2回理事・監事会を開催した 於：東京八重洲ホール
2017年(平成29年)12月	第3回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
2017年(平成29年) 9月	A B J 2017(アグリ・ビジネス・ジャパン2017)の流通・加工・鮮度保持ゾーンへ2小間出展した 協議会主催の『加工・業務用野菜の情報交換会セミナー』を開催 参加者：207名
2017年(平成29年) 9月	協議会会員と関東甲信越、東海北陸近畿の県JA、県連、全農都府県本部との情報交換会 及び産地視察会を開催した 於：産地視察先/J A全農ぐんま 園芸作物生産実証農場 参加者：会員11社18名、事務局2名
2017年(平成29年)10月	協議会会員と中国四国地区JA園芸直販担当者との情報交換会及び産地視察会を開催した 於：産地視察先/①株式会社アグリベスト施設栽培ほ場、②善入寺地区露地野菜栽培ほ場 参加者：会員8社12名、事務局2名
2018年(平成30年) 1月	協議会会員とJA全農関係者（東北・関東甲信越地区）が各ブースでの個別商談会を実施した 於：産地視察先/①株式会社アグリベスト施設栽培ほ場、②善入寺地区露地野菜栽培ほ場 参加者：会員8社12名、事務局2名
2017年(平成29年)12月	農林水産省 生産局 園芸作物課との意見交換会を開催した 於：KKRホテル東京 参加者：54名

2017年度（平成29年度）

- 2018年(平成30年) 1月 平成28年度における「カット野菜製造の実態」調査を実施した（平成30年3月発刊）
- 2018年(平成30年) 1月 2018 スペイン・オランダ現地研修ツアー（7泊9日）を開催した
参加者：12名（含む、事務局2名）
- 2018年(平成30年) 4月 国内現地研修会を開催した（沖縄県下）
於：①有限会社グリーンフィールド自社農場、②株式会社ぐしけん植物工場
③沖縄県農業研究センター④サンエー 那覇メインプレイス
参加者：29名（含む、農林水産省・事務局等6名）
- 2017年(平成29年)10月 平成29年度青果物流通システム高度化事業を事業実施主体として受注、以下の内容を実施した
①はくさい現地検討会（北海道下）
はくさい機械収穫実演及びセミナー開催（参加者105名）
- 2017年(平成29年)11月 ②はくさい現地検討会（茨城県下）
はくさい機械収穫実演及びセミナー開催（参加者161名）
- 2017年(平成29年)12月 ③水田を利用した加工・業務用野菜の栽培取組の視察及びセミナー（岡山県下）
於：矢掛町管内ほ場、笠岡市笠岡干拓内ほ場、倉敷青果荷受組合カット工場他施設
セミナー場所：倉敷青果荷受組合 参加者：118名
- 2017年(平成29年)10月 ④新流通方式に係る産地・実需者等のセミナーを開催した
於：タワーホール船堀 参加者：124名
- 2018年(平成30年) 2月 青果物流通システム高度化事業『事業成果発表会』の開催
於：タワーホール船堀 参加者：353名

2018年度（平成30年度）

- 2018年(平成30年) 5月 平成30年度の通常総会をKKRホテル東京で開催した
- 2018年(平成30年) 5月 第1回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
- 2018年(平成30年) 6月 第2回理事・監事会を開催した 於：東京八重洲ホール
- 2018年(平成30年)12月 第3回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
- 2018年(平成30年) 9月 A B J 2018(アグリ・ビジネス・ジャパン2018)の流通・加工・鮮度保持ゾーンへ2小間出展した
協議会主催の『加工・業務用野菜産地と実需者との情報交換会セミナー』を開催 参加者：246名
- 2018年(平成30年) 7月 協議会会員と関東甲信越の全農都県本部との合同商談会（個別商談）を開催した
於：J A 全農本所 参加者：会員7社11名、事務局1名
- 2018年(平成30年) 8月 協議会会員と東北・東海北陸近畿地区の県域担当者との合同商談会（個別商談）を開催した
於：J A 全農本所 参加者：会員8社13名、事務局1名
- 2019年(平成31年) 3月 協議会会員とJ A 全農青果センター（株）、東海北陸近畿地区13県域、中四国地区9県域との
合同商談会（個別商談）を開催した
於：大阪J A ビル 参加者：会員9社13名、事務局2名
- 2018年(平成30年)12月 農林水産省 生産局 園芸作物課との意見交換会を開催した
於：KKRホテル東京 参加者：54名
- 2018年(平成30年)10月 2018 ロシア現地研修ツアー（5泊7日）を開催した
参加者：17名（含む、事務局2名）
- 2018年(平成30年) 8月 平成30年度園芸作物生産転換促進事業を事業実施主体として受注、以下の内容を実施した
①えだまめ現地検討会（新潟県下）
えだまめ機械収穫実演、集出荷施設での調整選別作業視察及びセミナー開催（参加者121名）
- 2018年(平成30年)10月 ②だいこん現地検討会（青森県下）
だいこん機械収穫実演及びセミナー開催（参加者101名）
③はくさい現地検討会（宮城県下）
はくさい機械収穫実演及びセミナー開催（参加者146名）
- 2018年(平成30年)11月 ④水田を利用した加工・業務用野菜の栽培取組の視察及びセミナー（秋田県下）
於：J A あきた白神(長ねぎメカ団地)、J A 秋田やまもと(キャベツ生産ほ場)
セミナー場所：ホテル サンルーラル大湯（大湯村） 参加者：113名

2019年(平成31年) 2月 園芸作物生産転換促進事業『事業成果発表会』を開催した
於：タワーホール船堀 参加者：180名

2019年度（令和元年度）

2019年(令和元年) 5月 令和元年度の通常総会をKKRホテル東京で開催した

2019年(令和元年) 5月 第1回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京

2019年(令和元年) 6月 第2回理事・監事会を開催した 於：東京八重洲ホール

2019年(令和元年)12月 第3回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京

2019年(令和元年) 9月 A B J 2019(アグリ・ビジネス・ジャパン2019)の流通・加工・鮮度保持ゾーンへ2小間出展した
協議会主催の『加工・業務用野菜の情報交換会セミナー』を開催 参加者：207名

2019年(令和元年) 6月 協議会会員と関東甲信越の全農都県本部との合同商談会（個別商談）を開催した
於：JA全農本所 参加者：会員6社11名

2020年(令和2年) 1月 協議会会員と関東甲信越の全農都県本部との合同商談会（個別商談）を開催した
於：JA全農本所 参加者：会員6社12名

2020年(令和2年) 3月 協議会会員と東海・北陸・近畿のJAグループとの合同商談会（個別商談）を大阪JAビルで
開催予定を急遽中止した（コロナ禍のため）

2019年(令和元年)12月 農林水産省 生産局 園芸作物課との意見交換会を開催した
於：KKRホテル東京 参加者：73名

2020年(令和2年) 1月 2020 北米現地研修ツアー（5泊7日）を開催した
参加者：23名（含む、事務局2名）

2019年(令和元年) 5月 国内現地研修会を開催した（北海道下）
於：①ホクレンの農業総合研究所長沼研究農場 ②農業生産法人 株式会社 響
③南幌町農協（共選場、野菜園場等）④Jファーム苫小牧工場 スマートアグリ生産プラント
参加者：35名（含む、農林水産省・事務局等4名）

2019年(令和元年)10月 平成31年度の園芸作物生産転換促進事業を事業実施主体として受注、以下の内容を実施した
①えだまめ現地検討会（宮崎県下）
えだまめ機械収穫実演及びセミナー開催（参加者113名）

2019年(令和元年)12月 ②ブロッコリー現地検討会（埼玉県下）
ブロッコリー機械収穫実演及びセミナー開催（参加者217名）

2019年(令和元年)10月 ③スマート農業/自動収穫機等デモ視察・セミナー（北海道下）
於：鹿追町民ホール 参加者：140名

2020年(令和2年) 2月 園芸作物生産転換促進事業『事業成果発表会』を開催した
於：タワーホール船堀 参加者：138名（※申込者302名、コロナ禍のためキャンセル164名）

2020年度（令和2年度）

2020年(令和2年) 5月 令和2年度の通常総会がKKRホテル東京で予定していたが、コロナによる緊急事態宣言を受け、
急遽開催を中止して、総会資料を配布して議決採択を行った

2020年(令和2年) 5月 第1回理事・監事会を予定していたが、急遽開催を中止した（コロナ禍のため）

2020年(令和2年) 6月 第2回理事・監事会を開催した 於：東京八重洲ホール

2020年(令和2年)12月 第3回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京

2020年(令和2年) 6月 会員向けに「新型コロナウイルス感染症の影響調査」を実施した

2021年(令和3年) 1月 令和元年度における「カット野菜製造の実態」調査を実施した（令和3年1月発刊）

2020年(令和2年)10月 F O O D展2020（惣菜JAPAN2020）の流通・加工・鮮度保持ゾーンへ2小間出展した
協議会主催の『加工・業務用野菜の情報交換会セミナー』を開催 参加者：104名

2020年(令和2年)12月 農林水産省 生産局 園芸作物課との意見交換会を開催した
於：KKRホテル東京 参加者：66名

2020年度（令和2年度）

- 2020年(令和2年)10月 国内現地研修会を開催した（鳥取県下～岡山県下）
 於:①ワールドファーム鳥取工場 ②ワールドファーム直営農場
 ③倉敷青果荷受組合 カット野菜新工場・集出荷貯蔵施設等
 参加者：33名（含む、農林水産省・事務局等4名）
- 2020年(令和2年) 8月 令和2年度の水田農業高収益作物導入推進事業を事業実施主体として受注、以下の内容を実施した
 ①ブロッコリー現地検討会（北海道下）
 ブロッコリー自動収穫機展示・説明及びセミナー開催（参加者93名）
- 2020年(令和2年)11月 ②ブロッコリー現地検討会（静岡県下）
 ブロッコリー機械収穫実演及びセミナー開催（参加者168名）
- 2020年(令和2年)10月 ③加工・業務用野菜先進地視察＆契約取引セミナーの開催（富山県下）
 於：富山県農協会館ホール 参加者：141名
- 2020年(令和2年) 9月 ④物流・流通関連セミナーの開催（神奈川県下）
 於：AP横浜 参加者：88名
- 2021年(令和3年) 2月 水田農業高収益作物導入推進事業『事業成果発表会』の開催
 於：江戸川区総合文化センター 参加者：88名（※申込者136名、コロナ禍のためキャンセル48名）

2021年度（令和3年度）

2020年度、2021年度、2022年度
 海外研修ツアー実施無
 （コロナ禍のため）

- 2021年(令和3年) 5月 令和3年度の通常総会をKKRホテル東京で開催した
- 2021年(令和3年) 5月 第1回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
- 2021年(令和3年) 6月 第2回理事・監事会を開催した 於：アットビジネスセンター東京駅八重洲通り
- 2021年(令和3年)12月 第3回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
- 2021年(令和3年)12月 会員向けに昨年度に続き、「新型コロナウイルス感染症の影響調査」を実施した
- 2021年(令和3年)12月 「主要野菜の品目別用途別需要量等調査」を実施した
- 2021年(令和3年)10月 FOOD展(惣菜・デリカJAPAN2021)の流通・加工・鮮度保持ゾーンへ2小間出展した
 協議会主催の『加工・業務用野菜産地と実需者との情報交換会セミナー』を開催 参加者：209名
- 2021年(令和3年) 9月 協議会会員と全農県本部とのリモート個別商談会を開催した
- 2021年(令和3年)12月 農林水産省 生産局 園芸作物課との意見交換会を開催した
 於：KKRホテル東京 参加者：93名
- 2022年(令和4年) 1月 国内現地研修会を開催した（静岡県下）
 於:①TEN Green Factory株式会社 ②株式会社スマートアグリカルチャー磐田
 参加者：38名（含む、農林水産省・事務局等4名）
- 2021年(令和3年)10月 令和3年の水田農業高収益作物導入推進事業を事業実施主体として受注、以下の内容を実施した
 ①かぼちゃ現地検討会（北海道下）
 ブロッコリーに関連したセミナー開催 ※現場での実演会は中止（参加者189名）
- 2021年(令和3年)11月 ②物流・流通関連セミナーの開催（大阪府下）
 於：大阪コロナホテル ※現地見学会は中止（ビデオ紹介）（参加者86名）
- 2021年(令和3年)12月 ③先進地視察＆契約取引セミナー(長崎県下)
 ブロッコリー機械収穫実演及び諫早湾干拓視察及びセミナー開催（参加者225名）
- 2022年(令和4年) 2月 水田農業高収益作物導入推進事業『事業成果発表会』を開催した
 於：タワーホール船堀 参加者：108名（※申込者154名、コロナ禍のためキャンセル46名）
- 2022年(令和4年) 3月 水田利用の『園芸作物転換技術導入事例集』の作成・発刊した

2022年度（令和4年度）

2022年(令和4年) 5月	令和4年度の通常総会をKKRホテル東京で開催した
2022年(令和4年) 5月	第1回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
2022年(令和4年) 6月	第2回理事・監事会を開催した 於：アットビジネスセンター日本橋小伝馬町会議室
	第3回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
	会員向けに昨年度に続き、「新型コロナウイルス感染症の影響調査」を実施した
2022年(令和4年)12月	「冷凍野菜や冷凍調理食品における野菜の取り扱い等に関する調査」を実施した
2023年(令和5年) 1月	「フロッピーのフーレット適正及び国産・輸入品別及び形態別栄養価の比較分析」を実施をした
2022年(令和4年) 9月	FOOD展（惣菜・デリカJAPAN2022）の流通・加工・鮮度保持ゾーンへ2小間出展した 『加工・業務用野菜産地と実需者との情報交換会セミナー』を開催 参加者：120名
2022年(令和4年) 9月	協議会会員と全農とのリモート個別商談会（情報交換会）を開催した 協議会会員3社と4県域との個別商談会
2022年(令和4年)12月	農林水産省 生産局 園芸作物課との意見交換会を開催した 於：KKRホテル東京 参加者：96名
2022年(令和4年)11月	国内現地研修会を開催した（宮城県下） 於：①リッチフィールド栗原パブリカ園場 ②舞台ファーム（美里グリーンベース） 参加者：39名（含む、事務局2名）
2022年(令和4年) 9月	令和4年の水田農業高収益作物導入推進事業を事業実施主体として受注、以下の内容を実施した ①ホクレン長沼研究農場視察&セミナー開催（北海道下） 於：長沼研究農場 於：セミナー/北広島市芸術文化ホール（参加者100名） ②先進的な市場視察と青果物の物流・流通に関連したセミナー開催（千葉県下） 於：新生成田市場 於：セミナー/成田市文化技術センター（参加者108名）
2022年(令和4年)11月	③スマート農業実践園場視察&セミナー開催（石川県下） 於：安井ファーム様スマート農業実践ほ場 於：セミナー/白山市松任学習センター（参加者173名）
2023年(令和5年) 2月	水田農業高収益作物導入推進事業『事業成果発表会』を開催した 於：タワーホール船堀 参加者：176名

2023年度（令和5年度）

2023年(令和5年) 5月	令和5年度の通常総会をKKRホテル東京で開催した
2023年(令和5年) 5月	第1回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
2023年(令和5年) 6月	第2回理事・監事会を開催した 於：アットビジネスセンター東京駅八重洲通り会議室
2023年(令和5年)12月	第3回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
2023年(令和5年) 5月	2023 韓国現地研修ツアー（5泊6日）を開催した 参加者：28名（含む、事務局2名）
2023年(令和5年)10月	国内現地研修会を開催した（北海道下） 於：①北海道エア・ウォーターアグリフーズテクノ株式会社/札幌工場 ②鹿追町農業協同組合 参加者：42名（含む、事務局2名）
2023年(令和5年) 9月	FOOD展2023(惣菜・デリカJAPAN2023)の流通・加工・鮮度保持ゾーンへ2小間出展した 協議会主催の『加工・業務用野菜の情報交換会セミナー』を開催 参加者：135名
2023年(令和5年) 7月	協議会会員とJA全農東日本ブロック地区との個別商談会を開催した 於：JA全農本所 参加者：会員11社18名
2023年(令和5年) 8月	協議会会員とJA全農西日本ブロック地区との個別商談会を開催した 於：大阪JAビル 参加者：会員6社11名

2023年度(令和5年度)

- 2023年(令和5年)11月 農林水産省 生産局 園芸作物課及び近畿農政局との意見交換会を開催した
於：大阪コロナホテル 参加者：33名
- 2023年(令和5年)12月 農林水産省 生産局 園芸作物課との意見交換会を開催した
於：KKRホテル東京 参加者：86名
- 2024年(令和6年)1月 令和4年度における「カット野菜製造の実態」調査を実施した（令和6年3月発刊）
令和5年度の農林水産省からの調査分析委託事業（事業実施主体/日本施設園芸協会）に
ついて、協議会会員が多く委員となり以下の内容を実施した
- 2023年(令和5年)11～12月 量り売りの実施可能性調査として、小売店での量り売り実証試験を大阪、神奈川で実施した
- 2024年(令和6年)2月 重点13品目の「加工・業務用野菜標準基本契約取引ガイドライン2023」を作成・配布を行った
- 2025年(令和6年)2月 調査分析委託事業『事業成果発表会』の開催
於：アットビジネスセンター東京八重洲通り 参加者：132名

2024年度(令和6年度)

- 2024年(令和6年)5月 令和6年度の通常総会をKKRホテル東京で開催した
- 2024年(令和6年)5月 第1回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
- 2024年(令和6年)6月 第2回理事・監事会を開催した 於：アットビジネスセンターシェア会議室
- 2024年(令和6年)12月 第3回理事・監事会を開催した 於：KKRホテル東京
- 2024年(令和6年)10月 2024 アメリカ西海岸現地研修ツアー（5泊7日）を開催した
参加者：25名（含む、事務局2名）
- 2024年(令和6年)11月 国内現地研修会を開催した（高知県下）
於：①高知県東部地区管内園場3カ所 ②高知県西部地方卸売市場内（須崎青果、カネエイ）
参加者：31名（含む、事務局2名）
- 2024年(令和6年)10月 FOOD展2024(惣菜・デリカJAPAN2024)の流通・加工・鮮度保持ゾーンへ2小間出展した
協議会主催の『加工・業務用野菜の情報交換会セミナー』を開催 参加者：133名
- 2024年(令和6年)8月 西日本ブロックでの開催
於：JA全農青果センター株式会社大阪センター 参加者：会員6社11名
- 2024年(令和6年)8月 東日本ブロックでの開催
於：JA全農本所 参加者：会員5社9名
- 2024年(令和6年)11月 農林水産省 生産局 園芸作物課及び近畿農政局との意見交換会を開催した
於：大阪コロナホテル 参加者：32名
- 2024年(令和6年)12月 農林水産省 生産局 園芸作物課との意見交換会を開催した
於：KKRホテル東京 参加者：88名
- 2025年(令和7年)2月 プロパー事業「加工・業務用野菜の品種開発セミナー」を開催した
於：タワーホール船堀 参加者173名
- 2024年(令和6年)12月 キャベツ高騰等を受け、カット野菜の価格等に関する緊急調査を実施した
- 2025年(令和7年)2月 当協議会、日本野菜協会、日本惣菜協会による要請文を小売事業者5団体へ申入れを行った
マスコミ12社へ要請文の内容を公開、各新聞社等で記事掲載された



写真で見る野菜流通カット協議会10年間のあゆみ

2015年度



野菜流通カット協議会設立総会



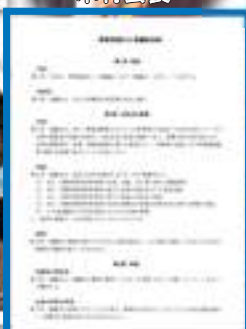
木村会長



新組織役員紹介



海外(ベトナム)現地研修ツアー



新組織規約



新流通方式に係る現地検討会&セミナー
(隅田川貨物ターミナル)



国内現地研修会(群馬県下)



国産野菜の契約取引マッチングフェア
(東京流通センター)

2016年



海外(ニュージーランド)現地研修ツアー



ほうれんそう現地検討会・セミナー
(宮崎県下)



国内現地研修会(京都府下)



白ネギ現地検討会・セミナー
(秋田県下)



新流通方式に係る現地検討会&セミナー
(常陸那珂貨物ターミナル)



(大分港貨物ターミナル)

2017年



国内現地研修会(沖縄県下)



情報交換会セミナー(東京ビッグサイト)



水田を利用利用した加工・業務用野菜の栽培
視察・セミナー(岡山県下)



海外(スペイン・オランダ)現地研修ツアー



2018年



海外(ロシア)現地研修ツアー



事業成果発表会(タワーホール船堀)



水田利用栽培取組視察・セミナー



えだまめ現地検討会・セミナー
(新潟県下)



だいこん現地検討会・セミナー
(青森県下)



JA全農との個別商談会
(大阪JABビル)

2019年



海外(アメリカ西海岸)現地研修ツアー



えだまめ現地検討会・セミナー(宮崎県下)



スマート農業/自動収穫機デモ視察・セミナー(北海道下)



ブロッコリー現地検討会・セミナー(静岡県下)

2020年



国内現地研修会(鳥取県下)



国内現地研修会(岡山県下)



ブロッコリー現地検討会セミナー(静岡県下)



先進地視察&契約取引セミナー(富山県下)



物流・流通関連セミナー(神奈川県下)



農林水産省との意見交換会(KKRホテル東京)

2021年



国内現地研修会(静岡県下)



FOOD展出版ブース(東京ビッグサイト)



農林水産省との意見交換会(KKRホテル東京)



かぼちゃ現地検討会・セミナー(北海道下)



先進地視察&契約取引セミナー(長崎県下)



2022年



ホクレンほ場現地検討会・セミナー(北海道下)



青果物の物流・流通に関するセミナー(千葉県下)



スマート農業関連セミナー(富山県下)



情報交換会セミナー(東京ビッグサイト)



国内現地研修会(宮城県下)



協議会 10年間のあゆみ

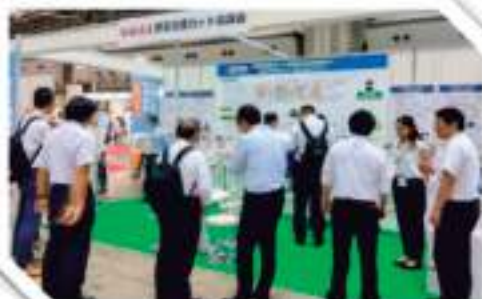
2023年



海外(韓国)現地研修ツアー



FOOD展出展ブース(東京ビッグサイト)



(東京会場)

JA全農グループとの個別商談会



(大阪会場)

2024年



海外(アメリカ西海岸)現地研修ツアー



国内現地研修会(高知県下)



新品種開発のための
品種開発セミナー



品種開発セミナー
(タワホール船堀)



3団体による要請文をスーパーマーケット協会等へ

野菜流通カット協議会会員名簿（令和7年度）・会員数の推移

会員企業 68社

R7年11月末現在

(有)アグリ・サポート・(株)旭物産・(株)アド・ワン・ファーム・(株)伊藤食品・ヴィルモランみかど(株)・(有)エーアンドエス・大阪八百勝・沖食スイハン(株)・(株)尾野農園・カゴメアグリフレッシュ(株)・(有)かねやま・(株)関東ダイエツクック・倉敷青果(株)・(株)クリハラ・(株)ケーアイ・フレッシュアクセス・(株)K PRODUCE・(株)健食・こと京都(株)・(株)サカタのタネ・(有)佐賀東部青果・サトウ産業(株)・(株)SAMURAI FARMERS・(株)サラダクラブ・サンポー食品(株)・(有)四位農園・(株)庄定・(株)須崎青果・(株)誠孝・(株)清浄野菜普及研究所・全国農業協同組合連合会・(株)大果・タキイ種苗(株)・(株)T&E・デリカフーズホールディングス(株)・デロイトトーマツリスクアドバイザー合同会社・東京シティ青果(株)・(株)トップ・ラン・(有)トップリバー・(株)106(トム)デリカ・ナラサキ産業(株)・成田食品(株)・日本山村硝子(株)・(有)ノウカノミカタ・(株)浜松ベジタブル・(株)ハローワーク・(株)ひらた・フードプロセス(株)・(株)ふくれん・(株)フルックス・(株)フレッシュおの・(株)フレッシュベジ加工・(株)ベイ・コマース・(株)ベジアークス・(株)ベジテック・(有)ベッツ・(株)豊彩・(株)前川博之商店・(株)マルト商事・丸西産業(株)・(株)マルマサフード・JAみやざき・ミヤジフーズ(株)・ユアサ商事(株)・(株)ユーキフーズ・横浜丸中青果(株)・(株)RAG東京・(株)和郷・渡辺農事(株)

準会員 3社

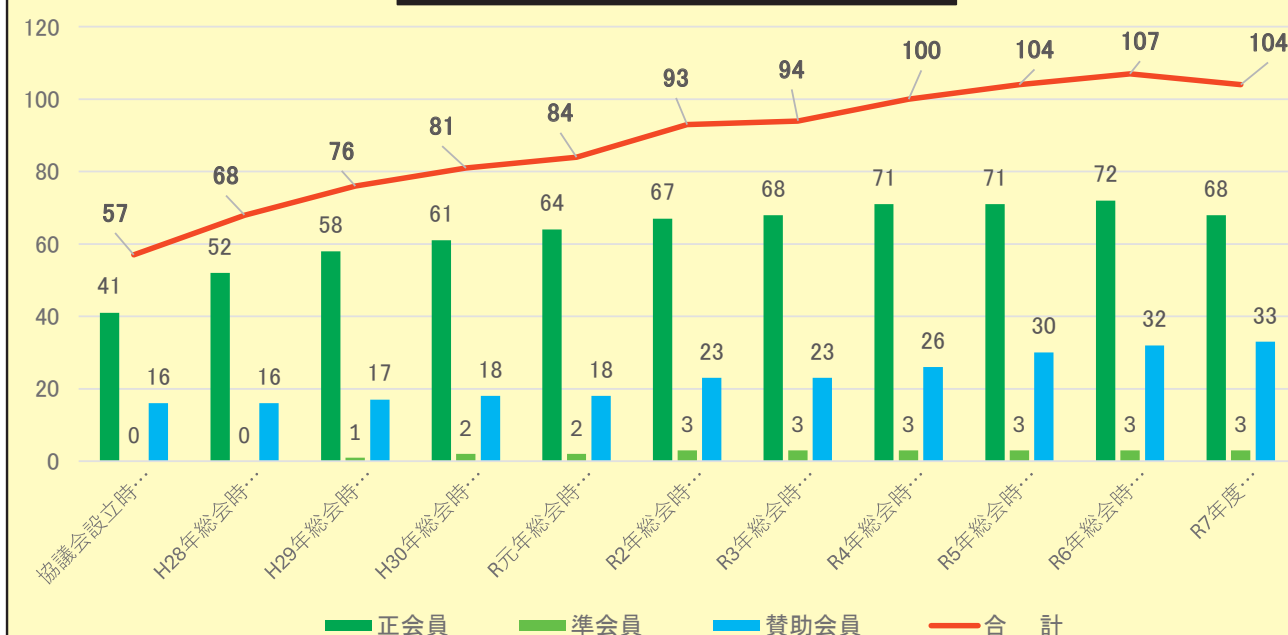
全国農業協同組合連合会(茨城県本部・長野県本部)・香川県農業協同組合

賛助会員 33社

(株)イシダ・(株)イーシーフロンティア・イフコ・ジャパン(株)・AGSN・(一社)APL Japan・NTTビジネスソリューションズ(株)・ENZA ZADEN・(株)カカクコム・川口精機(株)・(株)グローバルヒューマニー・テック・ゲンゼ(株)・興人フィルム&ケミカルズ(株)・小嶺機械(株)・セイカン(株)・(株)大生・大和フード&アグリ(株)・(株)寺岡精工・日建リース工業(株)・(一社)日本料飲外国人雇用協会・(株)日本農業新聞・日本ポリスター(株)・のむら産業(株)・(株)バイオ・シート・BIPROGY(株)・細田工業(株)・ホリアキ(株)・(株)マ克蘭サ・三浦工業(株)・三菱ケミカルアクア・ソリューションズ(株)・吉泉産業株式会社・ライオンハイジーン(株)・(株)流通研究所・(株)ワコーパレット



野菜流通カット協議会会員数の推移



設立10周年を迎えて（野菜流通カット協議会事務局あいさつ）

（一般社団法人 日本施設園芸協会 常務理事兼事務局長） 藤村 博志

この度、野菜流通カット協議会が設立10周年の輝かしい節目を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

これもひとえに、本協議会の活動に深いご理解とご支援を賜りました会員企業の皆様をはじめ、賛助会員の皆様、また、ご指導いただきました農林水産省等関係省庁、並びに全ての関係各位の多大なるご尽力の賜物と、事務局を代表して厚く御礼申し上げます。

当協議会は、この10年間、加工・業務用野菜等に係る生産・流通、小売、機械・施設、人材確保など、業界の垣根を越えた会員の皆様が見聞を持ち寄り、加工業務用野菜等の生産・流通改善策の検討や現場実証など、数多くの挑戦を続けてまいりました。

私が令和2年より事務局を担当して以降、コロナ禍で当協議会の活動は、大変厳しいものがありました。幸いにも、会員企業等のご協力・ご支援やキャベツ収穫機導入の成功に導いた生産・流通に係る当協議会の取組実績等もあって、生産・流通全国での現地調査やセミナー等に多くの皆様のご参加をいただき、国産ブロッコリー、レタス等の機械化一貫体系の構築、加工・業務用野菜の契約取引の着実な浸透、生産者と実需者のマッチング機会の創出等多くの活動を積み重ねることが出来ました。

今後、野菜生産に係る機械化・ロボット化・規格標準化の進展や生育予測システムの活用、0度、1度による新たな貯蔵技術（品質管理（温度・湿度等））の進展により、加工・業務用野菜における定質・定量・定価・定量は新たな時代を迎えつつあります。

事務局は、皆様の活発な議論と活動を支える「かなめ」として、設立から10年で築き上げたこの貴重なプラットフォームを更に発展させ、日本の加工・業務用野菜の生産・流通の未来に貢献できるよう、引き続き尽力する所存です。

結びに、会員及び関係者皆様の益々のご発展と、当協議会への変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。10周年のご挨拶とさせていただきます。

（一般社団法人 日本施設園芸協会企画部長） 平島 誠也

「野菜流通カット協議会」事務局を預かっています平島です。思い起こせば10数年前より私が、「青果物カット事業協議会」と「野菜ビジネス協議会」の事務局を預かっていて、両協議会より最終目的は国産野菜の普及に努めるという観点からも1つの団体になって、もっと活動の幅を広げようということで現在の協議会をスタートさせていただきました。

お陰様で協議会設立時の会員数57社から本日現在は100社を超えるまでになりました。この間「野菜流通カット協議会」は毎年のように農林水産省国庫補助事業の事業実施主体となり、数々の各種セミナーや加工・業務用野菜に関する調査・研究などに取り組んで参りました。この10年間を振り返ってみますと、一般参加者による各種セミナーの数だけでも49回を数え、その参加者数は6,965名にのぼっています。この様にこの10年間、多くの会員様を始め農林水産省、これまでの各事業の委員の方々、ご協力いただいた関係者の皆様のおかげで、今日の良き日を迎えられたことが事務局にとって何よりの喜びであります。

これからも「野菜流通カット協議会」への皆様のご協力ご支援をよろしくお願いいたします。





■活動内容

- 加工・業務用野菜等青果物の生産、流通、加工等に関する調査研究
- 加工・業務用野菜等青果物に関する基準の策定及びその普及指導
- 加工・業務用野菜等青果物に関する情報の収集及び提供
- 加工・業務用野菜等青果物の生産の振興及び流通の効率化等に関する事業の実施
- その他協議会の目的を達成するために必要な事業

発 行



野菜流通カット協議会

Vegetables Distribution and Cutting Association



<http://www.vedica.jp>